



大和國筒井清水

卷之二

檀勘左衛門誠忠傳

濱松奇國  
浅山芦園

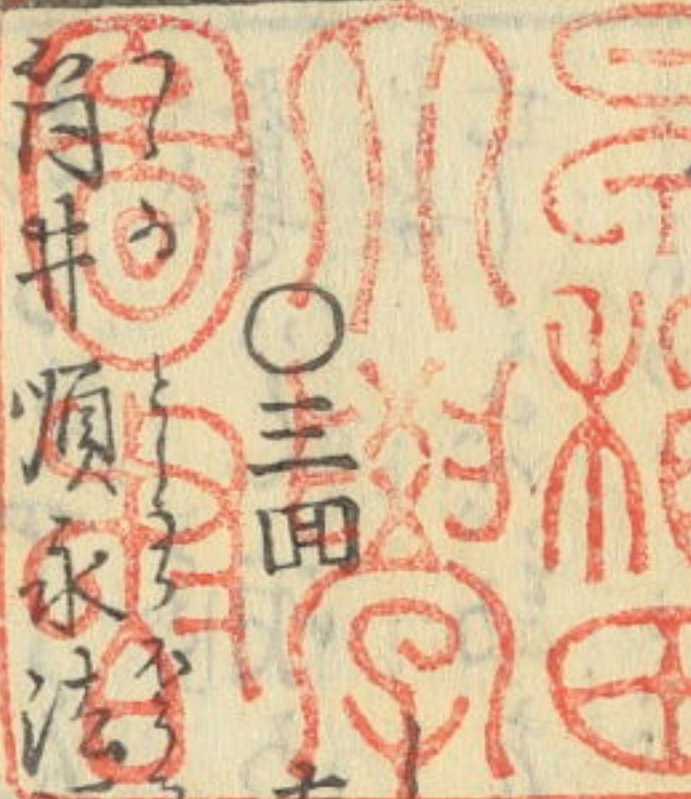
此書  
春興音曲

~ 13  
3175  
2



門へ13  
3175  
巻 2

大和國河井清水卷之二



○三四 春興

浪花

濱松詩國 編集

やまのふくしのちり  
ふまへら山田とゆき氏とをわらふ小生は通じて大旅  
倭好なり。左に元順永成亡く本領を集ひる人と心中に海死  
係汁ととらさるることも。能成もさうりしうはさうく春月と  
るしるる 備文 明山 御助 河 勿 富田 林 一 在 け ぐ ぼ ぼ へ とも  
月毎の費へふおらぐきい果し。かの農まへが食客とぬる春の  
人の心い飛ち川そのよふ入る日のまゝ新い瀬瀬うも大いよ

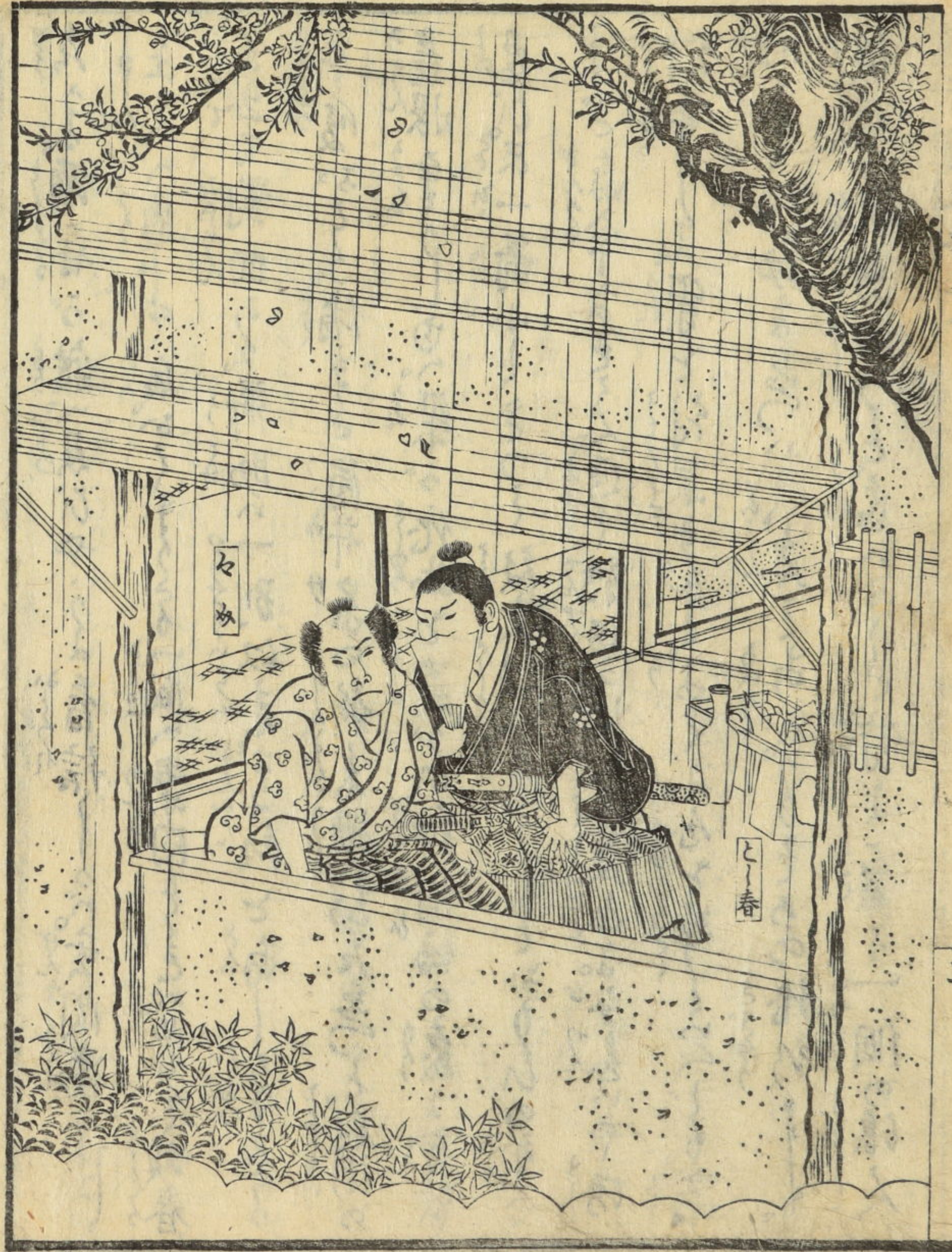
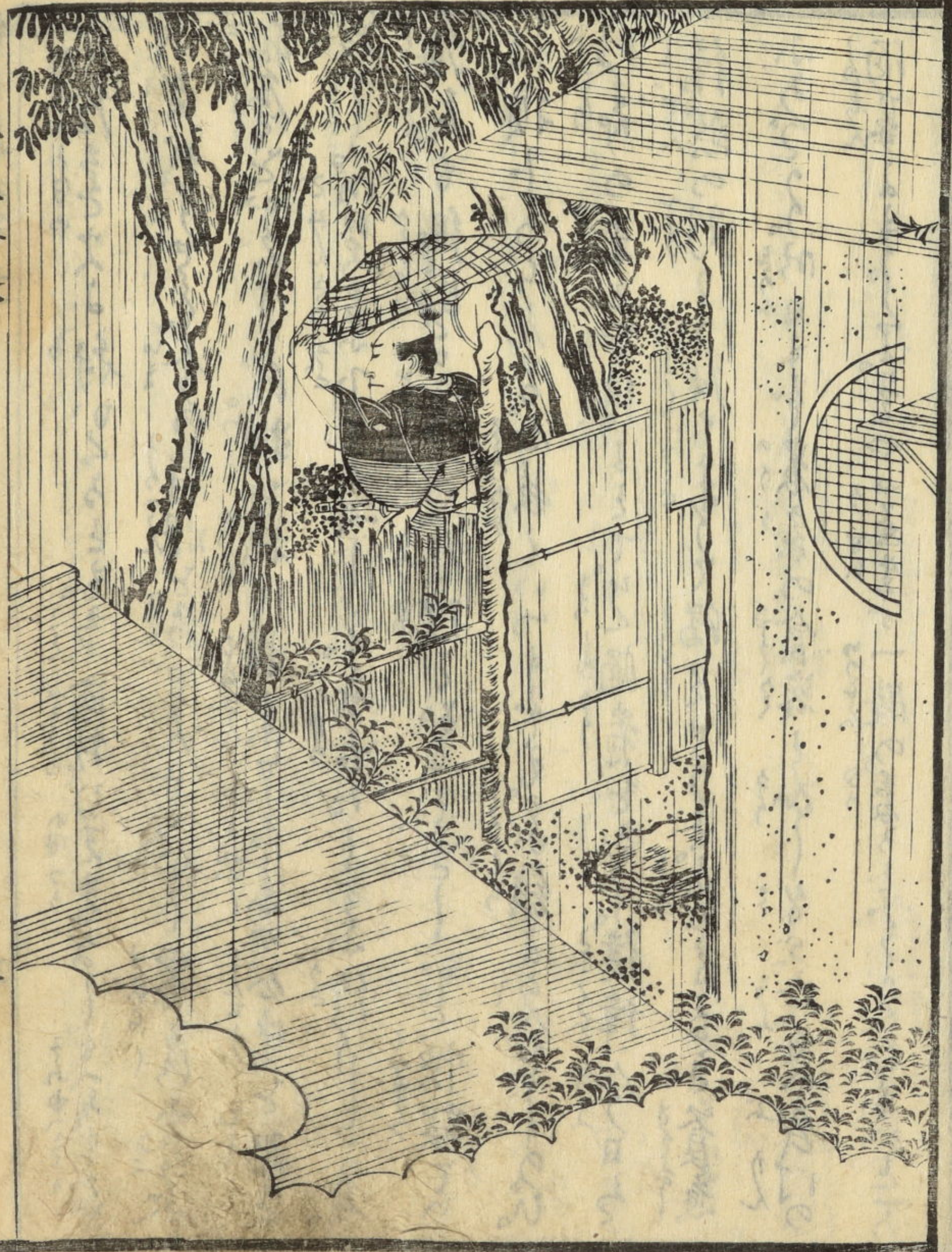
昭和九年  
九月九日  
購本

うい、れい、ち、か、る、く、そ、え、く、今、い、先、水、と、悔、ま、ど、その、甲、斐、を、  
ね、ど、せ、あ、て、い、け、時、い、う、ま、り、と、も、る、を、よ、ま、く、く、は、信、て、改、し、  
る、ま、し、と、改、め、の、ど、く、高、保、と、頂、戴、う、ず、と、も、文、命、と、聚、  
後、ま、る、れ、ふ、し、し、う、う、ぞ、れ、ど、ま、し、も、檀、幼、た、忠、つ、の、形、す、  
所、あ、び、う、と、煮、恨、し、と、保、と、ま、ね、く、憤、と、と、ま、む、と、  
ま、く、保、も、係、斗、か、ら、う、う、う、う、世、言、し、も、陀、の、通、い、ら、び、  
あ、く、と、中、し、ん、と、偶、と、岡、井、の、か、家、山、田、順、ま、ご、  
奪、い、ん、萌、あ、る、ゆ、と、推、ま、さ、し、順、春、し、味、し、て、順、永、を、  
亡、し、る、い、幼、た、忠、つ、と、討、ま、る、い、か、安、さ、の、と、う、ま、る、孫、ま、ご、  
の、栄、利、と、極、の、良、兼、う、う、と、お、り、い、ま、い、そ、う、大、和、國、山、田、の

なる。順春が鑑へ見じやうよ音信しうべ玄因番をじし  
主人へ通ぐて后かくまうらう一回、案内とまこやがて順春  
あきて對面ある御助の別改来その叙とおしと  
定後おらう儲まこと岡井家の新系檀幼た忠つと射柳の  
意眼まきりしゆへ保が他出とま叙がひ神南保のあま  
見び只一箭小しとつて叙にまきとくかひひのけい  
まご存命まきしん進く控役のまき及毎よままいや塔  
竹卒しと保と討果さんとおくふかと輝とつとも南  
時しと幼た忠つハ大身とおかぐらうそのの他叙し  
供り大勢をつとまぬいすし昔よまら一個の浪人

筒井清水巻之二

八景八景



八景八景

不詮を中火の射のくるとも事成就ハ見え来まし  
 小父がしせく今の背眼をおせんとかかく零落小乃よ  
 恥辱をかろりて類と拭て推系甘し。系が公中と怒ま  
 ねぐ。内望おふ下さるべしと毎言たくも小傳りし。か  
 順も御助が憤つと有理とおもとまし。かど快誤とい  
 仕換卜あらんる公長くいつまごもお籠よ父と一のじ  
 時帝の来ると待よとて先酒肴を出し。僕侍今日と  
 徒然の折し。能も来りて清きせりとん。とるる。食後  
 小あづり。昨日まで農家の食客とみか。今日ハ武門の  
 酒宴よまじり。是やや。生が一睦の。後るとび。つら。か。も。ハ。と。て

日夕の夏と忘し。一兩月とと。一日山田順まの  
 いつもの。郷助と酒宴と催し。取も。文行に。砂を  
 迎。扈後。い。い。備。坊。へ。退。せて。多。と。ひ。と。ら。備。も。ま。あ。ひ。  
 筒井家四十二代の嫡孫兵左衛門順快の子と生まる。二男あり  
 由へ本家と銘どる。能。お。見。以。永。が。一。子。向。井。太。郎。順。秀。乃。は  
 系が物なまじも。お。て。筒。井。の。家。名。と。相。傳。の。所。ハ。下。風。よ。ま。り  
 多。ま。ら。ん。と。か。わ。ひ。や。ま。が。屋。お。け。の。眼。と。ま。れ。が。も。置。り。た  
 計畧とも。按。じ。出。さ。ず。多。く。の。年月と。終。り。り。和。海。が。胸  
 中よ。め。計。り。ふ。其。奇。計。以。施。と。と。と。教。言。り。う。それ。は。助  
 心を裏の家と。つ。と。ば。作。畧。の。ゆ。う。い。ま。す。も。と。て。し。つ。

筒井清之卷之三

湯玉はさき初より情はみだり拘儀よりひとしつらふして  
 幸家と奪いせ奉らんとなるといふも只今まをるる大  
 率成明とてお前所を座と斗てぬまうく在る所今日  
 いらるる者自らや所を中の密よりと明させまつるの教養よ  
 陰ずれば大原に依りて五人は自己一人の猶よ極して  
 免やせん角やせんといはれは志成若しは時と極せしむる  
 経つとも事洞ひ疑し素居のぬれは智を叩いて射るよ  
 まづ本家の老臣のうら一人のうら一人と味方し是と  
 計畧とてふしつらふ威就はつらふは尚時幸家改るる高取  
 云蕃頭紙智利之が射ひは漏るるはし我被害者の射は

考よるよ沈黙大獲しとて係牙ふしし傑と誰ひも後を巡  
 らしめらばお我行の秘さるるのるん只行とては方へられ  
 君ともつて其を以て傑さるるとしてははひ行幸しと  
 高取を著しと一味よなとさかちと日次をそし傑がぬるる  
 成りらじ曹孟徳が圓長賢公以用ひとわんとせしがどく  
 己が方よまらるるなぬい配盤狼藉にして是とそし傑は  
 食意ひとよるるまの賓客のてりしはまも流石は悪くは  
 悟むし難くては縁ごと云著い生は邪智ふこれものるるに  
 よう順まの心を知しす魚とそ月日とてさし却後  
 井の塚中より順永法印一子大舟順秀と云はるる源流も



あつゝとてき敷くお札のつゝは知のつゝは流るひ  
たすゝとて鳥あるうら偶と心裡はつゝは明日といふ  
いひもあつゝとて絶くは父の終日流るおつゝは主人かの  
まゝに法がつゝは。  
とておつゝとて産よせんは福もまが一枝ありともやま産よ  
父の伊心よつゝとてまげんと道ちよ令とてつゝとて  
と一枝は折らせのつゝは山内の竹本川及び松樹の枝も  
折るつゝとて禁制もまがもあつゝは守角井氏の名殿願  
おのつゝとて今つゝとて道ちのつゝは寺傍もまがと  
おつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて

つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて  
つゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとてつゝとて

南生書水巻一



多岐孝、鼻祖なり。小其山中の死と折た家への家土  
 居くハ何のりとけたりとるべと如く小之り制礼を  
 形し。木の枝と赤衣と手折、鹿藉言、河内通、法  
 小背く罪人、くむや、折、街より、る制礼は限らず、竹木と折  
 へへ、或ハ塵芥、推へ、寸と、樞、書紙、記をも事と  
 制より、往、同じく。一、代、不易の、國家の、きぬ、どの、推、ハ、仲、の  
 告、小、も、う、れ、代、代、天子の、初、き、小、も、ろ、く、手、只、天下の、万、民、が  
 多く、推、も、き、つ、も、万、民の、推、と、三、國、その、法、と、推、も、ち、り。  
 その、背、く、と、曲、事、と、黥、劓、ある、ハ、足、折、折、折、罪、と、刑、罰、ハ  
 殺、殺、五、刑、三、子の、う、ろ、ふ、終、り、一、は、一、城、の、ま、と、ぬ、ぐ、と、身、と

あり。其制禁を犯。悪逆不道の心を、前井家世十余代の  
 相續、を、束、な、し。咽と、治、め、民、と、推、育、を、り。意、堂、よ、一、と、生  
 お、あ、り、鼻、祖、へ、の、不、孝、を、り、海、が、首、切、人、も、の、藩、中、よ、お、あ、り、  
 檀、幼、た、あ、り、う、ろ、か、ふ、い、れ、ら、し。速、く、出、席、せ、よ、と、中、付、び、の  
 作、よ、り、是、世、に、く、檀、方、へ、角、と、通、を、と、び、幼、た、あ、り、直、よ、か、け、来、り  
 相、公、の、内、を、是、一、と、あ、り、て、后、と、る、と、一、と、抗、如、り、よ、と、も、出、城、  
 え、き、ま、り、よ、へ、委、細、思、り、奉、つ、と、飲、茶、を、も、の、順、永、に、も、は、り、  
 印、の、極、力、が、下、と、も、是、く、も、順、永、が、首、す、て、え、せ、よ、と、も、中、く  
 所、着、免、り、も、く、は、り、も、は、り、も、は、り、も、ね、ど、も、流、石、ハ、及、志、の、印、叙、の  
 中、も、は、り、は、り、は、り、も、は、り、と、場、ハ、ら、ん、も、い、た、な、り、と、も、是、殿、を

前井清水卷之二



幼左門



須永

ふふふふ

付ひ幼左妻つづね宅へぬる光系ハ屠所の羊の肉ゆふ似く  
痛がりも衣なり角てとねよ付なり刈血汐は海一押カ  
と持系しと主君の内あよ指せし思さづしは悲傷とあふなり  
然と内着いさうい久新うゆりし押カとつうと押屋は入の御亡  
泣の吊ひなれふ斗ひやべーととも潔く言よとまこべ相云  
ふハ少機廻車せせぬ幼左妻つづねなり休息せよとの言  
あつづつて返せしぬ

○四回 音曲

山田次郎順春ハさき大屋のかりひえりる知よ今田本家の  
子尚井と師順春いさうこの誤さづし檀今トて首は付せ

たましいへ然ぐぬの候侍なりと明山御助と復々  
教森例の酒宴は始々郷助順春よむい密くは尚井の  
憐中の名妙法とすし檀幼左妻つづぬいり相公の御さすね  
そと若殿とよよいけ忠義良とさうとさるまゝなとせり  
衣とさるは侍出家いととと答さるおのめしと頼とさげ  
大強と頂戴さし渡中ふ交より忠義武勇の難法に相  
てとさるをや角中ハ已が方の程を知りさる白痴者として  
ささぐゆ伏せし者どもと人衆と悪とさるよひと傍とあれ  
るふ相公もあつと失ひかよとげおはしるは福を致  
は誠と出さるさうとささるまゝとさるさる日頃の苦痛とさす

時高取をよませしと。高取は矢と念ひ、山田須春海が、高取を  
 つかうのゆゑ、公女をよませし。我大臣は、容易は、洞ひが  
 く。高取は、蕃に、よませし。我大臣は、容易は、洞ひが  
 斗をよめて、振るよ、口をよ、出さ、い、お、洞をとり、い、い、  
 匠一からん、い、洞助、少、時、工、ま、と、巡、り、い、近、日、高、取、と、ら、と、  
 例の通は、食、饗、い、殿、后、一、大、と、ら、と、店、教、と、ら、と、い、い、  
 梁と、い、や、つ、い、承、代、仕、ら、べ、い、い、若、治、と、背、に、さ、い、子、所、若、治、と、  
 と、い、  
 宣ひ、お、い、酒、壺、と、い、い、壺、は、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 後、い、

高取は、意、眼、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 世との、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 が、一、命、よ、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 一、命、よ、換、い、い、我、大、臣、と、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 這、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 高、取、は、方、へ、い、い、と、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 づ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 だ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 茶、室、よ、入、て、後、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

高取より一人を蕃茶碗と名とりてたてハ一と押留り茶  
今白鹿じ茶の別肺肝と改してをむらひ熟と名  
飲まじくしてを蕃茶一茶碗改して僅一口と名  
味は湯いり如の茶肝の茶味との異なるを改小  
しては後におとりの山田順春清而快然と  
て復ら垂し一通の月漏りのものをとて文へりて  
押戴を披とて又よ洞略成蛇の上り高祿を以てす  
べと角の折紙より高取巻おとて順春一還一高知  
恩賜せし人とのゆくゆくはつとて順戴つて一日

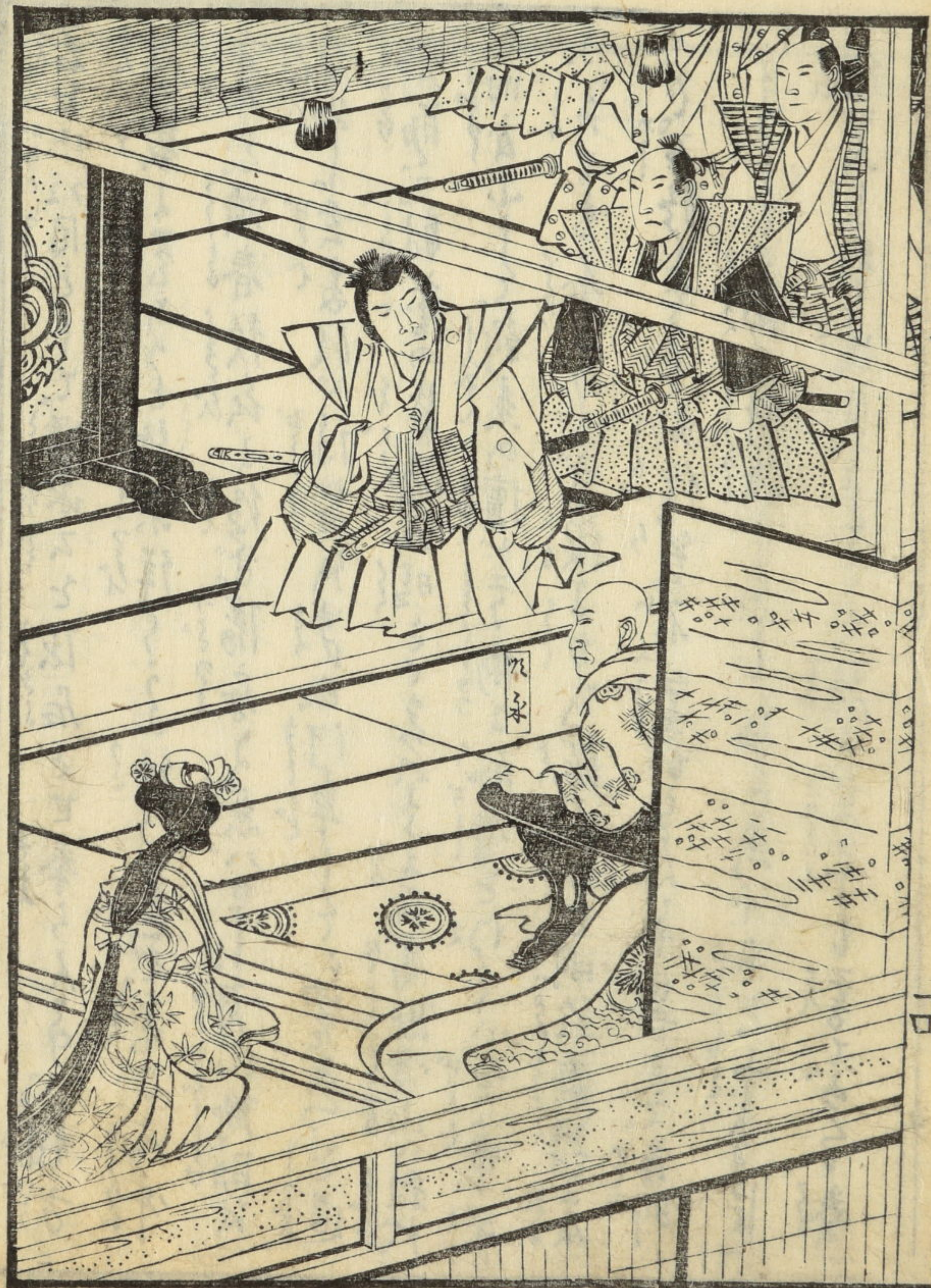
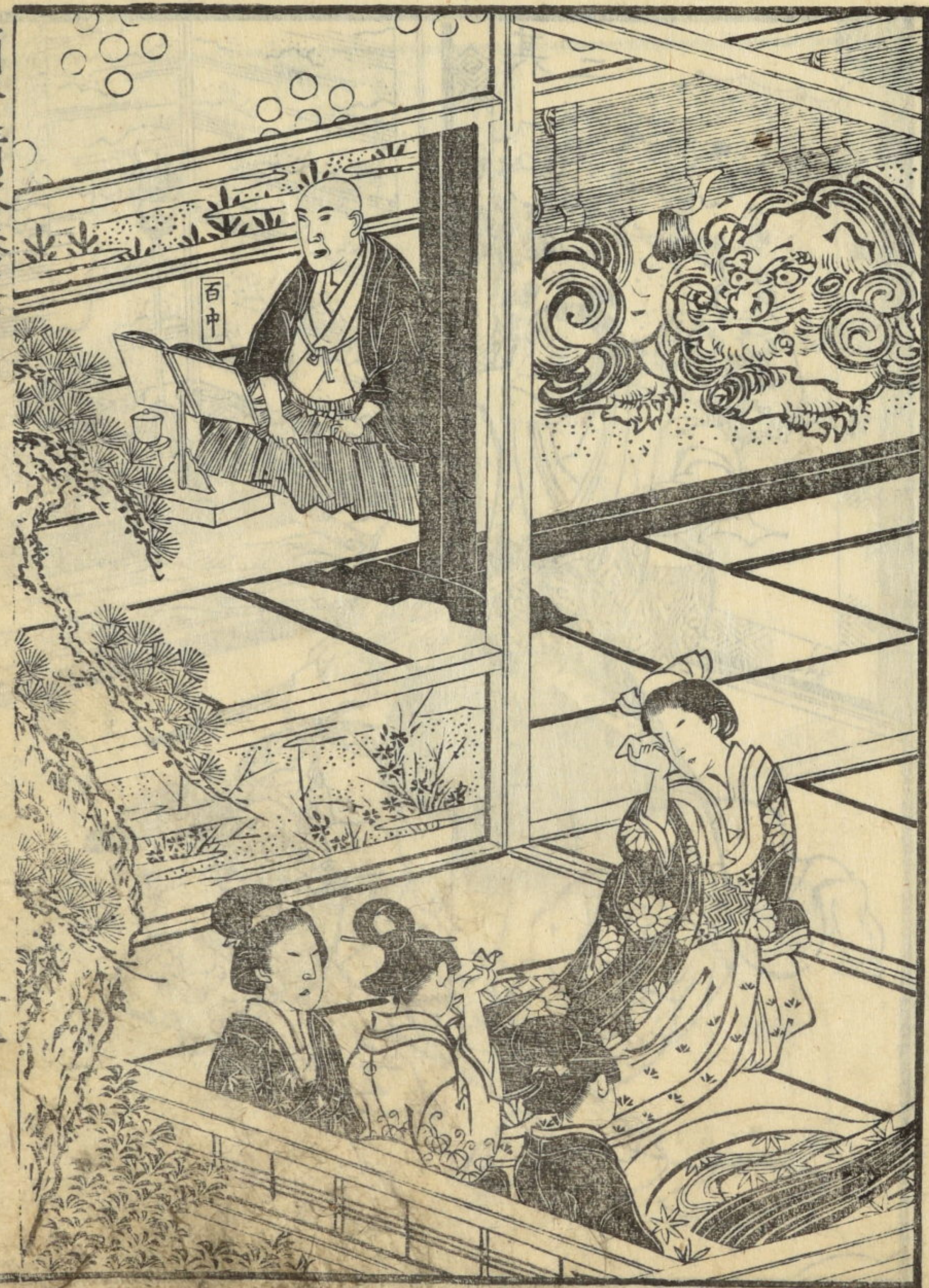
るまはてしては魚を香餅のつとて己と名  
漁人の釣よびとて士ハ福のぬえを亡心と名  
亡す。往昔より祿のおふかぬ出。切を名と名  
必お治りて後一書小其名と亡る。後加の准法  
ハ天下の真家傑として。忽齊の國の富貴なりと名  
國の王と名と名として。後王らよの悦びたまは  
韓信の背人なり。齊の大國ハ楊。之を  
くくく悦びて。楚の項王と名して後韓信と名  
ふふて斬りて。楚の項王と名して後韓信と名  
るる高祿を井んじて。名を使は。嘗て失ふ

公が君のお方と拙く忠とぞさんとするは文に孫の  
 ありありお晋の縁懐が言に土巴と友人のなりよ死と  
 玄蕃不智の匹ま君が忠とありありあうづこと此世と知て  
 諫お不忠と知て不忠と仕る。是つとあるは伯樂のありし。  
 千里の麒麟の如き道理あり。君のおぼしむるの義いごと  
 一兩年のあうづり。その内事とせぬ。無事仕る。今自  
 能ひお方と奪へんと計をうへい。わろ智略ととせられ。  
 大に成就せんといふ。人ともいふ。同才順春多と早し。  
 筒井家と横領の子。及ぶ所。何い。順永と毒害とせられ。  
 玄蕃不智と据て。是つと。孫才公用する。此のありて事。

房の妹とさる。毒茶と用んよ。搦殺のうらよ入てまへ  
 どの時ひ難しといふ。も。熱湯の熱ひあつもの。中へ入る。時ひ  
 自ら湯を泡立て。又い。搦中。あつもの。つ。公利たる。順永  
 云。速くも。是と。あつもの。へ。必。定。か。つ。つ。又。死。命。あ。つ。て。飲。と  
 ても。緊。毒。の。咽。よ。入。い。つ。ど。拘。ふ。ま。ら。づ。る。勿。比。其。あ。と。ま。と  
 へ。一。か。ど。し。て。固。口。鼻。等。の。七。竅。より。血。不。ど。ど。と。出。て。死。と  
 中。及。べ。ば。危。丁。人。焼。き。煮。方。放。り。ま。さ。る。ま。で。その。後。と。お。わ  
 者。あ。つ。ぎ。一。味。の。と。ま。り。で。い。あ。然。と。ま。る。巡。り。ま。る。斗。略。し。り  
 系。が。忍。業。よ。今。回。君。殿。順。永。の。淡。山。の。搦。の。一。技。と。お。わ  
 家。土。産。と。お。し。ま。ひ。と。所。懐。り。あ。つ。て。檀。助。左。衛。門。小。令。と。

市首と付せ。改す。私をた。母及と磨と。人として。か。も。は。親  
子の。思。む。ま。と。は。心。裡。の。救。傷。い。い。斗。新。系。ま。が。う。の。あ。や。の  
や。え。あ。う。幼。左。忠。の。首。赤。よ。と。作。あ。り。し。つ。い。ん。は。は。ず。か。の  
謎。い。う。ふ。し。も。一。命。と。助。ら。な。し。と。お。り。い。の。事。を。も。や。う。い。を。板  
殺。害。せ。し。血。刀。と。指。と。不。忠。不。義。も。恥。ら。ら。ず。出。た。助。ま。ん  
ゆ。え。藩。中。一。流。の。風。流。と。す。ふ。梁。成。将。ま。が。う。者。あ。ら。ね。ど。  
其。人。ま。よ。ま。ふ。ド。て。幼。左。忠。と。悪。き。目。の。い。ひ。な。し。若。殿。の  
早。世。と。悔。む。り。の。さ。ら。ば。け。い。の。お。の。づ。う。頂。承。の。市。井。に。逢  
幼。左。忠。と。恨。む。ら。う。殿。と。慕。い。せ。う。ん。の。義。人。の。あ。ら。ね。ど。  
こ。と。改。定。せ。ん。そ。め。い。市。世。継。り。た。市。家。う。ま。は。市。合。身。の。ま。

君と此後目として。頂承を隠居とせ奉らん。の。い。ま。う。方  
寸の裏よ。ま。あ。う。と。顔。未。詳。ら。う。は。修。ら。ま。を。免。り。て。め。牙  
う。り。と。頂。承。教。表。よ。終。了。藩。房。よ。思。は。せ。し。市。山。御。助。の  
呼。出。し。去。妻。氏。が。孫。累。が。守。せ。行。卒。し。て。幼。左。忠。と。退  
郷。助。の。射。墓。の。葬。墳。が。時。と。せ。ら。れ。よ。と。高。取。市。山。の。教。代  
の。旧。女。小。し。て。新。系。の。擅。が。子。衛。は。所。傳。と。い。は。れ。し。は。玄。蕃。が。子  
小。女。も。も。ん。よ。う。ず。假。よ。か。ぬ。添。ん。と。同。流。類。別。よ。及  
べ。む。百。法。と。い。ふ。奴。僕。等。不。義。か。ら。ん。の。り。も。や。し。て。若。別  
や。う。う。し。て。之。ゆ。り。計。收。し。て。幼。左。忠。が。不。義。を。ま。は。す。は  
怪。り。し。れ。く。風。流。と。い。ふ。流。は。廿。年。も。暮。り。て。あ。る。春







の花の次は程より去年の風流きくしく山々。若殿の市身のしんみ  
 とと候にありて誓りもふるよ貴州指さびに死る兼乃  
 小石ひまつうしと卯月の末より大敵市不例よ後ら皆  
 かいあは角よ市後燈ととととととととととととととととととと  
 うかひたまふお出んるふくらうらひて。皆宿胃熱うらに  
 合え市指の進ませらるる由入。城業よりも。何ともんを  
 懸とめたまふととととととととととととととととととととととととと  
 の市懸りゆと僅しから。高衣玄蕃次ハ係斗ふりふと  
 ととととととととととととととととととととととととととととととと  
 將士百中といつる者も多曲節の塩蔵とととととととととととととととと

密よそとまねととととととととととととととととととととととととと  
 満仲云の所ふるも女にちのりと作文けし。俣理とてしるる  
 ぬりとや合り大敵へも市懸して而中とや音曲塩蔵の志と  
 付いしと披露よ及び其日ととととととととととととととととととととととととと  
 山田が妻も病まうらひのおと入まう。檀幼な妻つな  
 ぬり一家中座よ列するお次まで百中とカ出されて一即と  
 付るのよと俣理の文白は大敵の山不をありしと何うととととと  
 蕃政ごうらひととととととととととととととととととととととととと  
 が父君の命よ肖せり。家には友介仲まよ付るよとととととととととととととと  
 せん我子の高常九と斬るよ女即ととととととととととととととととととととととととと

たもけちも果して信仲へ仰取ひ申と再び親子御對面  
 とせよりのめ是主のながさうりよ我子のそと斬しり日一  
 の忠臣と信仲と所々取れり人殿と始め信仲何云の面  
 備く夜系仲克の類いは然忠臣末の世の濫と執ト入るに  
 付ても行かす幼たあつては席はあつて面がせそ仲を  
 笑ふる不ど檀と後るくくの云紫公表し凡てりれとぞ  
 くの檀幼を悲ひ其其くして居りしが行まもけ信仲  
 の作者はどの又音ふくそいへ其子細い主君信仲より討と  
 信付らま一員女御まると助まいしてせこころの香薷丸が  
 前代討て信仲公の門下と班しなる日牙一の信老を

忠臣なりハ年忽の玉信仲を日本第一の仁者として我  
 子の斬る英女御まると助し仲克が信りを教し英女  
 どのに幼高と信を免りし由は仲克が仕合とあつて忠臣  
 のやうにやうもどし信仲公仲克が信りを信しけりいふ我  
 子と殺まがし世に私曲の名をなさん向後信仲の文を  
 盡し信仲の大臣者仲克の仕合なりと信まうと居たりし  
 如く旬旬もい百中の大ひよるまをりし一の斬りて信と  
 下りぬ頂承も去年の春頂秀と討よと命せしめり信  
 今今も幼を承つて信眼と作出るべきやうにまされがし  
 今今もまもいし信速よそと討しめ余りふも信老

くこへ借し不佞の願あがき給やと西梅大...  
心腹に忠候頻りて西んまを搦りし...  
あつらふはよ今晩百中が信りたる淨瑠璃の...  
上よいし...  
積皆五腕成搦り...  
る眼...  
あつらふ...  
歎き...  
我...  
理小園く大又首の...  
7

多くいづれに仁の志...  
仲老の志を...  
不佞の志と...  
と...  
殿...  
ほ...  
備...  
な...  
味...  
悔...  
1

萬年書水巻

天

只今西系貨にころろ大國強國さうくひ安民はねし玉ん  
 所發明とくとりひぬる知れ力血と引くは後小入まり  
 しく熟柿のほるもいなる新国としひ好し殿と村  
 ちりし刃うまはまいし思ふましりては後もますしん  
 ころろにむかひるもいハトとつとまともつ、賢之は法は  
 とりとりれは一柱の而く行義殿ははは堅固さうとや。とや  
 所さへは清引中されよと大ひは飲飲勇たては順高  
 取良の合符中訓語さしは場の之系不貞系よりさう之  
 たりれ禮ゆたあはねまじ序の箇井太郎順秀殿のい  
 供は御父子の御面は海や王仙り仙り生て七世の孫と

玉と汎ひ千秋の果をせぬ御壽と上中下まぶるまで  
 幼なるうづた義と成りぬ儲禮幼なる御祈派とよハ  
 私多何卒御あさ下とるべし。先別も下よりと下して  
 上は敷むきし料のぐと難し。家後ら者後初しもま君に  
 射しゆりと下とさるる若らよ。是は柱のゆりとや上とるの礼  
 義の徳と換ひ通成忘といふ去ふより今日より定人仕され  
 このふなるふこよさしうられ有程とひひまうし順秀への忠  
 節家の柱ともあはる家長るまは御加保あはるさうし  
 御候さしこしつぱう幼なる婦に返さし人かうしつべに切に

誇るりのあり私を御殿と頼ひまはるるた極のまゝと為付られ  
いんつとまゝに家の毒小なり御家と離れられた御所治らば  
我々と名殿の一命と助かりしとかりん心うまばいつと飛く  
不礼のゆゑとねとみ安し又主君と婚り一家中とくしふは  
程の切りあつたのかばい居て行つた御用治りふべし  
たふ心振く勝手生じ悪を募り後小の身と亡すものと  
弁へびりいそ凡人の後様さかろしぎんいふ本とくりとぞん下り  
かゝるは損じつとば御家と離れ御用治りふべし  
御加治とおねさし大役を初りまば家の滅亡とせられた  
うすもまて御所治り其にいふんとととば名殿

御ふとろとろい海一理りまは強き苗むるふいあらぬも  
行年射術の奥義と我は傳へとくとみ練ふとやぞいそは  
のよゝもふととめ指南をたのむ入とそその傳授よかこつて  
離しめらぬ其風情を幼友あつとろとろて左様は慈愛を始り  
るし我家の射術の奥義は今もそとと相傳せんと。硯を色て  
雲とろい流し。筆とろとろて白書院の紙隔は畫く三尺余  
の大的よ道德仁義礼智信の文字と向よ書ふらへ内院  
いんと指て。是こそ君子の六的とも。國家のまゝとろい内院  
所も離れぬ心の的。先づ一道德の的を射しむ付政道  
つらとろい事々あは。中まば名家太平あり。射くらげせは危

才二小仁の的。天比と心をひとく小を喻は雨露の草木  
 苗も。学ふる。孝陽の温和の徳と。大邦の寛仁大度と貴めり。  
 才三よ義徳の的。賞爵よく明らふ。切ある武士とあげ。  
 羽の倭邦の族と退退け。言悪利非の悪星のまら只中に  
 射あつと。一張の弓の勢ひたり。才四五六ハ礼智信三つの  
 的。心小うけ。伍りもあざあうべう。以主君の礼ハ慈恵の  
 的。臣下の礼ハ忠の的。子と親よ。孝の的。明友五倫を  
 信の的。政道補佐ハ智恵の的。奉の礼ハ徳を。遠的のね  
 りひを定めたり。我射術の傳へたり。弁台無河のどく  
 才四ハ。市を退せたり。や若老母を侍ひ。忠を以て。



行去。あまむかよき。是まん唐土。越王の臣下。范蠡が忠  
 化よ。夫よま。越王の臣下。高禄とよへ。戸侯に  
 封せんとあ。一。成る。て。禄とよ。大名の下ハ久し  
 と。居る。べう。切。名。て。才。退。ハ。天の。道。なり。と。つ。あ。よ  
 姓名を。後へ。陶朱公と。呼。ま。五。湖。よ。世。と。道。を。任。る。と。何。日。の  
 福。ならん。を。順。承。る。親。子。ハ。幼。た。母。子。ハ。固。を。惜。ま  
 せ。う。ひ。経。り。退。子。成。き。再。び。勤。仕。と。せ。ん。と。そ。の。有。以  
 今。ト。ら。り。と。山。田。順。春。高。取。玄。蕃。顔。と。共。ハ。何。と。同。し。と  
 是。と。と。が。な。り。武。士。の。我。と。互。通。す。幼。た。母。の。ま。む。が。も  
 再。勤。ハ。終。す。ま。し。柴。ガ。ク。加。増。と。ほ。く。大。役。と。つ。と。め

若殿の命の親よりと傍系生むる時、終よそむ力と亡す  
 基よりとて、困きをせしハ、天晴の英智より、ついでのへ射流の  
 奥、美ふまごころく。書院の紙隔へ去記せし。道德仁義  
 礼智信の的をも、柴が再勅も、回トリスを、唯いつまぐも、は  
 紙隔が用ひて、高禄となへたり、君臣双方の志ハ相立、  
 互し。魏の文侯、自ふふふとて、我を柴の末行ふも、遠る  
 事なうれと、侃いさし。師徑といつる者、終ふも、突倒し、は  
 と、はぬ、文侯、俸より、後よりとて、はよふとれ、南壁とを、  
 と、は玉ましと、や、唐土なるも、は群、は檀が、忠節  
 と、はは、は畫一的、は筒井家の、は室室なりと、は倭兵とり、はて、は

左邊つと退けんところ、玄蕃が邪智くそ、はて、は

筒井清水卷之二



